

【研究主題】 児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援

～保健室来室者への養護教諭の対応とその視点～

小学校部研究部長（新発田市立紫雲寺小学校） 脇川 恭子

中学校部研究部長（新潟市立横越中学校） 小島 恵理子

キーワード

健康管理能力の育成

養護教諭の支援

保健室来室者

1 はじめに

近年、子どもを取り巻く生活環境の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与えている。具体的には、生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー、性の問題行動、薬物乱用、感染症などの新たな課題が顕在化しており¹⁾、児童生徒の生涯を通じた健康管理能力の育成が急務であるといえる。

また、新潟県養護教員研究協議会の保健室利用状況に関する調査²⁾では、1日あたりの来室者数は小学校23.4人、中学校34.0人であり、年々増加傾向にある。あわせて、保健室に来室する児童生徒のニーズが多様化・深刻化していることから、養護教諭はより多くの視点から、適切な対応を行っていくことが、今後ますます必要となる。そのために養護教諭は、個々の健康課題を把握し、児童生徒1人ひとりにより一層丁寧に対応することが求められていくものとする。

養護教諭が行う保健室来室者への対応の1つに個別の保健指導がある。養護教諭が行う保健指導は、平成21年4月に施行された「学校保健安全法」において、保健室の機能として明記され、現代的な健康課題の解決のために、その重要性は増している。しかし、齋藤ら³⁾は、養護教諭はけがや疾病の対応を通して保健指導を行っているが、中には養護教諭が無意図的に対応していたものがあるとしている。今後、養護教諭は保健指導の重要性を視野に入れ、児童生徒一人ひとりの健康管理能力を育成するという意図的な視点をもった対応を行うことが欠かせない。

養護教諭が児童生徒の健康管理能力を育成するための対応やその視点については、齋藤らが概念化を試みている。齋藤らは中学校に勤務する養護教諭にインタビュー調査を行い、児童生徒の健康管理能力を育成するための対応とその視点を明らかにした。しかし、30名という限局された養護教諭からの調査であり、その結果が、校種を越えた多くの養護教諭に共通するものであるかについては検討されていない。さらに、齋藤らの研究の目的は対応と視点の概念化であるため、その対応等が健康管理能力の育成にどのように影響したかについては、今後、明らかにしていく必要がある。

そこで、平成23・24年度の研究では、養護教諭が一人ひとりと関わるができる保健室来室者への対応に焦点をあて、今後ますます求められる児童生徒の健康管理能力を育成するための対応とその視点について、齋藤らの研究をもとに調査を行う。本研究を通して、県内小・中学校の養護教諭が、発達段階にあわせてどのような視点を持ち、どのような対応を行っているのかを明らかにするとともに、その対応の効果についても検討する。それにより、児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の視点が増え、齋藤らが指摘しているように、今まで以上に意図的・計画的な対応が可能になるものとする。

2 研究目的

県内小・中学校の養護教諭が児童生徒の健康管理能力を育成するために、発達段階にあわせて、どのような視点を持ち、どのような対応を行っているのかを明らかにするとともに、その対応の効果についても検討する。

3 研究の意義

- (1) 明らかにされた視点を日々の保健室来室者への対応に活かすことで、養護教諭は児童生徒の健康管理能力育成のために意図的な対応を行うことができる。
- (2) 養護教諭が多くの視点から児童生徒を理解したり、健康課題を把握したりすることは、児童生徒のよりよい発達のために必要な力の見極めにつながり、適切な保健指導や連携に活かすことができる。
- (3) 養護教諭自身が自分の対応に不足している視点を補うことができる。

4 研究方法

- (1) 調査対象：新潟県養護教員研究協議会小学校・中学校会員 778名（複数配置は1名ずつ回答）
- (2) 調査の方法：各校の養護教諭にインターネットで質問項目に対する回答を求める。
- (3) 調査の時期：平成23年12月～1月中旬
- (4) 調査内容：先行研究における児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の対応の視点を基に、養護教諭が自己の対応を振り返る。
- (5) 分析方法：方法（4）で得られた結果を統計的に検討する。

5 タイムスケジュール

1) 1年次（平成23年度）

(1) 会員

内容と方法	〆切
① 今期の研究推進計画についての内容を把握する。	1月中旬まで
② 全県アンケート調査にインターネットで回答する。	

(2) 支部の研究推進委員

内容と方法	〆切
① 今期の研究推進計画について、支部内の会員に説明し、共通理解を図る。	7月11日までに研究部へ報告する。 1月下旬まで
② 支部内の研修計画を立案する。	
③ 支部内の研修について、会員に周知し、活動を推進する。	
④ 各支部の研修内容を報告する。	
⑤ 平成24年度の研究推進計画（2/7提示）を支部内の会員に説明し、共通理解を図る。	
⑥ 平成24年度の研修計画を立案する。	

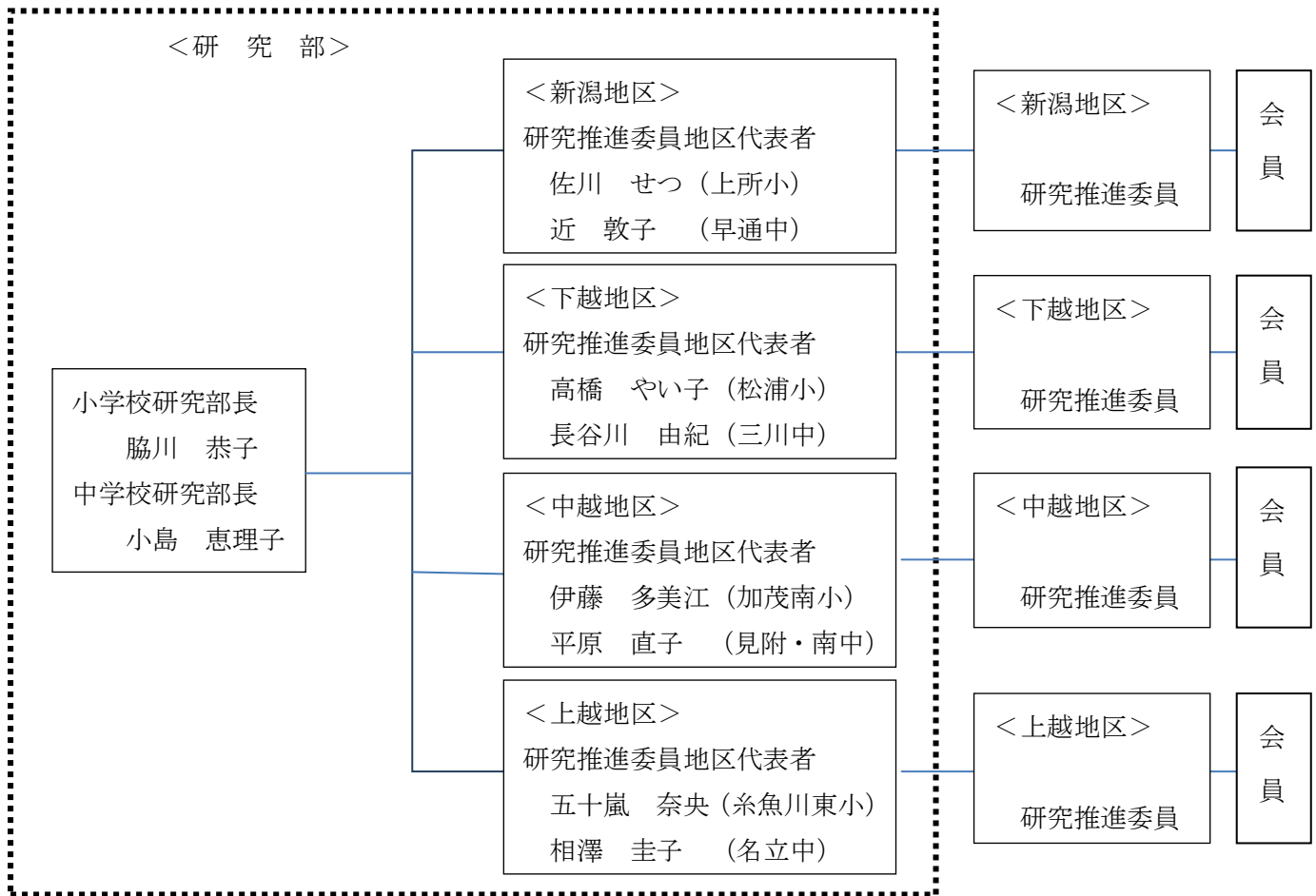
(3) 研究部（研究部長及び地区代表者）

内容と方法	〆切
① 今期の研究推進計画を立案し、研究推進委員に共通理解を図る。	5月9日
② 各支部の研修計画の立案を支援する。	
③ 各地区から1名ずつ研究論文執筆者を依頼する。	7月11日
④ グループ研究について推奨し、支援する。	(7月11日)
⑤ 研究誌に研究計画と経過を執筆する。	11月14日
⑥ 全県アンケート調査の結果を分析、考察し、報告する。	2月7日
⑦ 平成24年度研究推進計画を立案し、第2回研究推進委員会で提案する。	

2) 2年次(平成24年度): 研究結果をまとめ、総会で発表する。研究論文執筆者(グループ研究も含む)の論文を研究誌に掲載する。

6 研究組織

(1) 組織図



(2) 支部ごとに、実態に合わせた研究組織を作り活動する。研究組織は支部を単位とするが、支部を二つ以上合わせて一つの組織としたり、市・郡の教育研究会、学校保健会等と合同で行ったりしてよい。

(3) 研究推進委員ならびに支部の代議員は、新潟県小学校教育研究学校保健部、新潟県中学校教育研究会養護部の役員とも協力して研修を推進する。

7 研究予算

平成23年度の前算は95万円。(各支部へは1人400円+支部配当15,000円を配分する)

引用参考文献

- 1) 中央教育審議会答申 2008.1.17
- 2) 新潟県養護教員研究協議会研究誌 2010
- 3) 齊藤理砂子、岡田加奈子、高田しずか: 中学生の健康管理能力を一人ひとりに育成するための養護教諭の日々の対応とその視点—養護教諭30名に対するインタビュー調査より—学校保健研究 2010

平成23年度 研究推進計画

★印は全会員 ●は支部研究推進委員 ・印は研究部

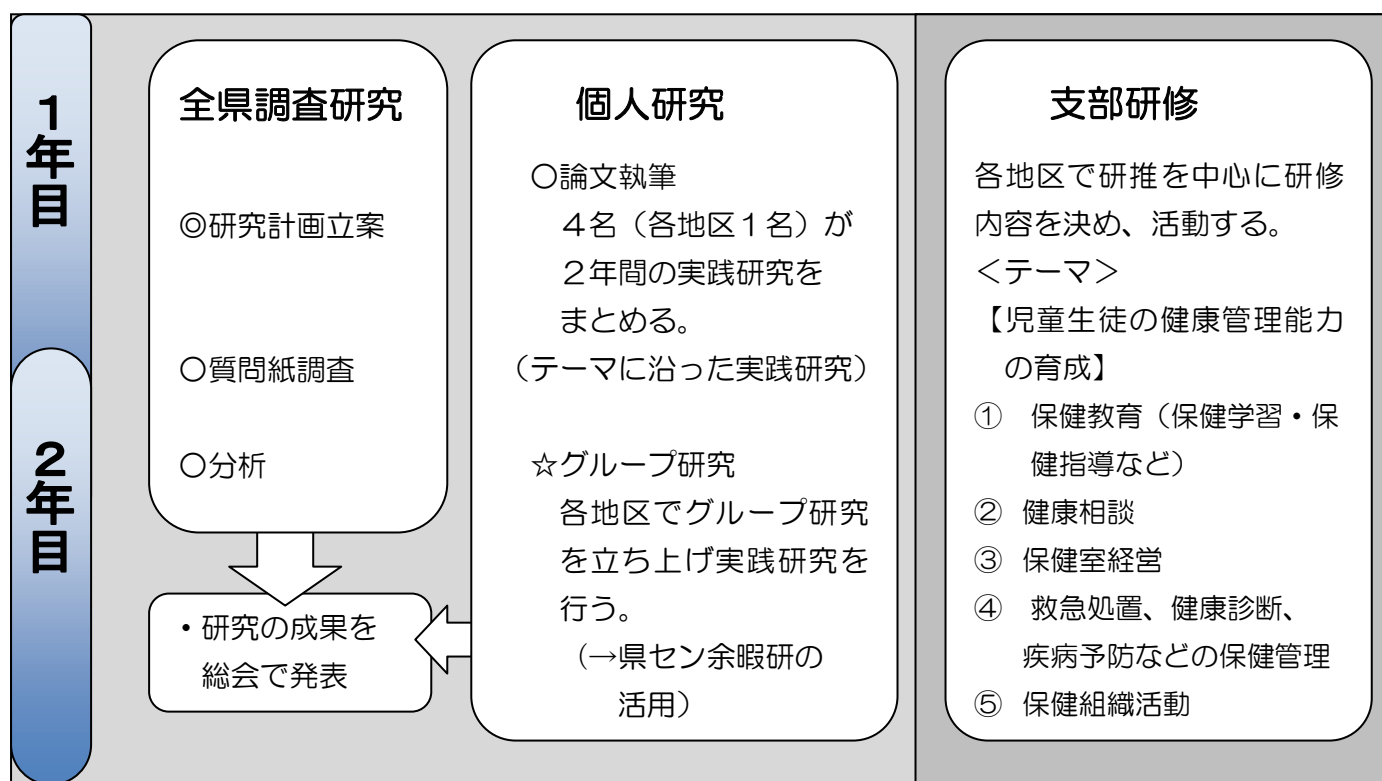
期 日	会 議	内 容
5月9日（月）	◎第1回 研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23・24年度研究推進計画の確認 ・研究推進計画細案・活動予算配分計画について審議
6月中		<ul style="list-style-type: none"> ●支部内の会員に研究推進計画を周知し、会員の活動と支部の研修計画を推進 ・研究誌執筆者を依頼 ・グループ研究の立ち上げを支援する。
7月11日（月）		●各支部の研修計画を立案し <u>研究部へ報告</u>
7月20日（水）頃	☆論文執筆者 打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の書き方についての講義 ・論文作成の見通し ・研究誌への執筆について
7月25日（月）頃	○第1回地区代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・校種別研究調査の内容検討 ・研究誌編集について
8月 9日（火）	県養研研修会・総会	・会員からシンポジストとして参加依頼
8月17日（水）頃	○第2回地区代表者会	・校種別研究調査の内容検討
11月 4日（金） 頃		・研究誌執筆原稿の✕切り、研究部へ提出。
11月11日（金）頃	○第3回地区代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研究推進委員会の運営に関わる計画検討 ・研究部で原稿を点検の上、研究誌担当へ送付
12月～1月中旬		<ul style="list-style-type: none"> ★「校種別研究調査」の実施（会員はインターネットで回答） ・その後調査の集約と考察
1月下旬		●各支部の研修内容の報告 （平成23年度校種別研究の評価・反省報告）
2月 7日（火）	◎第2回 研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の研究の反省 ・次年度の研究推進内容の検討
2月14日（火）		・第2回代議員会で研究誌を配布
3月3日（金）頃	○第4回 地区代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の分析結果のまとめ ・総会発表にむけての内容検討

【研究主題】 児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援

～保健室来室者への養護教諭の対応とその視点～

キーワード 健康管理能力の育成 養護教諭の支援 保健室来室者

研究目的 県内小・中学校の養護教諭が児童生徒の健康管理能力の育成のために、発達段階にあわせて、どのような視点をもち、どのような対応を行っているのかを明らかにするとともに、その対応の効果についても検討する。



調査研究から得られた児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援についての視点を共有することで、自校での保健室来室者への対応に活かす。